

組報

# 真宗おおだ東

創刊号  
2013(H25).1.1

発行所  
真宗大田東組  
組報編集部

## 濁世の目足

大田東組長 松村 淳真  
(久利・専徳寺住職)

大田東組は、旧三瓶・大田・石東3組に存する42ヶ寺の門信徒の方々が、親鸞聖人を宗祖と仰ぎ阿弥陀如来の智慧と大悲のみ教えを聞き開きつつ、日々称名念佛申しましょうというサンガ集団です。

組長の任をうけ、なじみの席以外で挨拶することは内心いつも躊躇するもので、ふと思いついて「聖典セミナー」浄土三部経ほかを読みはじめてみました。これがなかなか新鮮で面白い。還暦を過ぎて初等教育のおさらいみたいですが、いつものお経が違った響きで立ち上がる感じがあって思わぬ発見でした。

ことし本願寺は永年取り組んできた基幹運動の名称や方針を軌道修正しました。本願念仏のはたらきを煩惱具足のわたしが信知して、人生を悔いなく歩みましょうという基軸は変わりません。聖人の言葉にふれて、頷い

たところは翌朝には煩惱熾盛に生きる「私」が闊歩する毎日です。

こうした自覚から、韋提希夫人が釈尊に請うた「教我正受」(他力の信心)への思いを折にふれ受け止めたいと思います。新しい運動展開の経緯から大田東組は向う3年間の重点目標を「経語を伝えよう」と定め、仏事でも經典等のことばを正しく聴き、伝えましょうと方針を提唱しました。経説が真実であれば混迷する社会ではきつと新鮮に響くであろうと考えるからです。親鸞聖人は「本願の名号は濁世の目足たり」とのことばを残してくださいました。

さまざまな縁によって起る出来事にお念仏をとおした目となり足となって、我が行に処し得るかを問われているのだらうと思います。

ともかく旧3組が新たな動きをはじめるとあたり、総代・仏婦・仏壮の方々をはじめ戸惑いも多々あるとうと存じますが、自然な私たちで歩み出しましょう。また住職方には「仏法ひろまれかし」の願いのもと共に歩んでまいりたいと思います。

### 御同朋の社会をめざす運動(実践運動)常任委員

- 【委員長】松村 淳真 (組長)
- 【副委員長】菅原 憲 (担当副組長)
- 【常任委員】大石 寛隆 (副組長 研修部会長)
- 三瓶 暁 (副組長 広報部会長)
- 菅 秀範 (組会計 寺院自治部会長)
- 小笠原峰子 (女性部会長)
- 小谷 正美 (門徒総代部会長)
- 下迫 紀弘 (壮年部会長)
- 金盛麻衣子 (青少年部会長)
- 斎藤 寛 (念仏者養成部会長)
- 【主任(事務局)】松浦 英篤 (「実践運動」教区委員)

(「実践運動」の概要はP2～3参照)



大田東組執行部の皆さん  
左から 松浦教区委員、菅原副組長、松村組長、大石副組長、三瓶副組長

# あなたはなぜ「浄土真宗」なのですか？

「御同朋の社会をめざす運動」を手がかりとして、

大田東組「実践運動」教区委員 松 浦 英 篤  
(大田・真浄寺住職)

## ◆はじめに…

あなたはなぜ「浄土真宗」の門徒なのか？と聞かれたら、どう答えますか？

家が代々、浄土真宗だから…。とか、たまたま知り合いがいたから…。などの縁で、真宗門徒である方も多々おられることでしょう。しかし、「真宗はどんな教えなの？」「その教えは私の生活や生き方に何の役に立つの？」などと漠然と感じておられる方もいるでしょう。ともすれば、真宗の教え＝仏事（法事・葬儀）と考え、実生活や社会と「み教え」を切り離して考えている方も多いのではないかと思うのです。

そこで、宗門で2012年4月から策定された、「御同朋の社会をめざす運動（実践運動）」を手がかりとして、「み教え」と「私の生き方」「社会のあり方」を考えてみたいと思います。

## ◆阿弥陀如来の願い（本願）をよりどころに

### 【運動の基本理念】

私どものいただいている「み教え＝本願念仏の教え」とは、「生きとし生けるすべてのいのち

を、もろさず必ず苦悩から救いたい」との阿弥陀如来の願い（本願）をよりどころに、いのちがあるものが如来の智慧と慈悲に照らされ包まれた御同朋であることを知らされる教えです。

親鸞聖人は、「御同朋」という言葉について、当時の混迷した生き難い世の中にあつて、本願念仏の教えに生きる仲間を「とも同朋」「御同行」と呼びかけられ、苦悩する人々と共に生き抜かれました。

それらをふまえ、如来の願いに出遇ったとき、「私」の生き方が転回され、私を取り巻く現代社会の課題・問題に向き合い、生き難い「今」を乗り越えていく原動力となるわけです。

- このみ教えのもと、私たちの教団は、従来より
- ①「門信徒会運動」 〳 門信徒・僧侶ともに全員が聞法し、伝道することを願いとし、み教えに生きる門信徒・僧侶となることをめざす運動
  - ②「同朋運動」 〳 「私」と「教団」の差別の現実を課題とし、あらゆる差別・被差別からの解放をめざす運動

これら2つの運動をすすめて、それを総称し、「基幹運動」として取り組んでまいりました。

今回、この「基幹運動」の成果と反省をふまえつつ、阿弥陀如来の願い（本願）をよりどころとして、いのちの尊さに目ざめる同朋一人ひとりが、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現をめざす運動」として「御同朋の社会をめざす運動（以下、「実践運動」と略）」をすすめてまいります。

## ◆ひらかれたお寺をめざして

### 【大田東組での「実践運動」の基本方針】

〳 社会の課題とかがわつていく「お寺」「念仏者」のあり方をめざして〳

このほど、「実践運動」を推進するための委員会を大田東組で設置するにあたり、「ひらかれたお寺をめざして」ということを運動の主眼に置きました。

「ひらかれたお寺」と聞くと、「子どもからご年配の方まで自由に出入りし、いつも人が集うお寺」などのイメージを持たれることでしょう。過疎・少子高齢化が取り巻くこの地域で、お寺の存続に関わる問題でもあります。それも含め、み教えをもとに、社会の課題に向き合い、かわつていくことが、社会に「ひらかれた」お寺の姿であると思うのです。

というのは、今までの（あるいは現に）お寺で説かれる「み教え」というのは、「個々の心のありよう」を問題とする一方で、教えをよりどころとするで見えてくる、現実の社会の苦悩や課題にはあまり触れず、あえて切り離してきたということがいえないうか。み教えを「個人の心のありよう」に収斂させ、矮小化するにより、門信徒の皆さんに対し社会の問題に目を向けさせなかつたことを、僧侶は謙虚に反省すべきであると思います。

さらに踏み込めば、そのような教えを説くことにより、「僧侶」や「お寺」の言うことを聞く「都合のいい」門信徒をつくってきた僧侶側の責任は問われるべきことであります。このようなお寺の姿であるから、社会の苦悩に目を向けなくても存立してしまい、閉鎖的な内向きの空間になっていたのではないかと猛省させられる思いであります。

阿弥陀如来の「本願」、すなわち「生きとし生けるすべてのいのちを、もろさず必ず苦悩から救いたい」との願いから見えてくるのは、「御同朋の社会」をさまたげる社会の苦悩や課題です。すなわち、差別・格差・貧困・自死・原発・戦争・ヤスクニ・環境破壊などの「すべてのいのちが苦悩から救われていない」現実や社会矛盾、生き難い世のすがたが見えてくるわけです。

### ◆「実践運動」への取り組み

【大田東組での実践運動組織と取り組み】  
では、具体的にはどのように「実践運動」に取り組んでいけばよいのでしょうか？ 去る2012年7月1日におこなわれた『御同朋の社会をめざす運動（実践運動）』大田東組委員会の総会で示された運動組織について述べてまいりましょう。

《めざすところは「ひらかれたお寺」》

「社会とかかわっていくお寺をめざして」  
あくまでも目指すべき方向は、前項で述べた「社会の課題・問題とかかわっていくお寺／念仏者のあり方」すなわち「ひらかれたお寺」です。その基盤となるのが、「本願念仏のみ教え」であり、その「み教え」に学んでいくところから始まります。

①念仏者養成部会　「み教え」に学び、門信徒・僧侶ともどもに、全員聞法・全員伝道の基礎をはぐくんでいく部会

②研修部会　「み教え」に学ぶとともに、み教えに基づいて、社会との関わりを考え、念仏者の社会参画活動の基礎をつくる部会

③実践部会　「み教え」に学び、社会とかかわっていくお寺をめざし、念仏者としての実践活動をおこなう部会

④社会部会　「御同朋の社会」をさまたげる、社会の課題・問題を学び、念仏者としての具体的社会実践を考え、めざしていく部会

⑤広報部会　それぞれの部会・部門での「ひらかれたお寺をめざす」活動や取り組みを、組内および社会に発信していく部会

⑥ひらかれたお寺部会　上記の各部会・部門が「実践運動」の計画や方針に沿い、スムーズに運営できるよう、基軸となって働きかけていく部会

### ◆おわりに：

実践運動自体が、新たな取り組みであり、宗門（本山）はもとより、教区や組内でも少なからず戸惑いや混乱があったことは否めません。しかし、「ひらかれたお寺」をめざすこと、すなわち「社会とかかわっていくお寺のあり方・念仏者のあり方」という運動の方向を、ぶれずにきちつと示し、各々の部会が連携をとる、僧侶・門信徒ともども真摯に取り組んでいくことができれば、この「実践運動」は前進する、と信じてやみません。

この「実践運動」の根幹は、「本願念仏のみ教えに出会い、広めてゆくこと」「み教えに基づいた、念仏者の『社会とかかわり』や『社会参加の活動（本願に基づいた実践）』」です。それを、堂々とかがげ、実践することこそが、本願のみ教えをよりどころとした「御同朋」としての「念仏者＝真宗門徒」のあり方であり、社会とかかわる宗教としての「浄土真宗」・「お寺」の存在意義なのです。



# 寺院配置図

大田東組は、このたびの石東組・大田組・三瓶組の合併で、42ヶ寺の集合体になりました。(★印は地区協議員です)

鳥井	
が我寺 82-0302	せつ設ほう法寺 84-8235

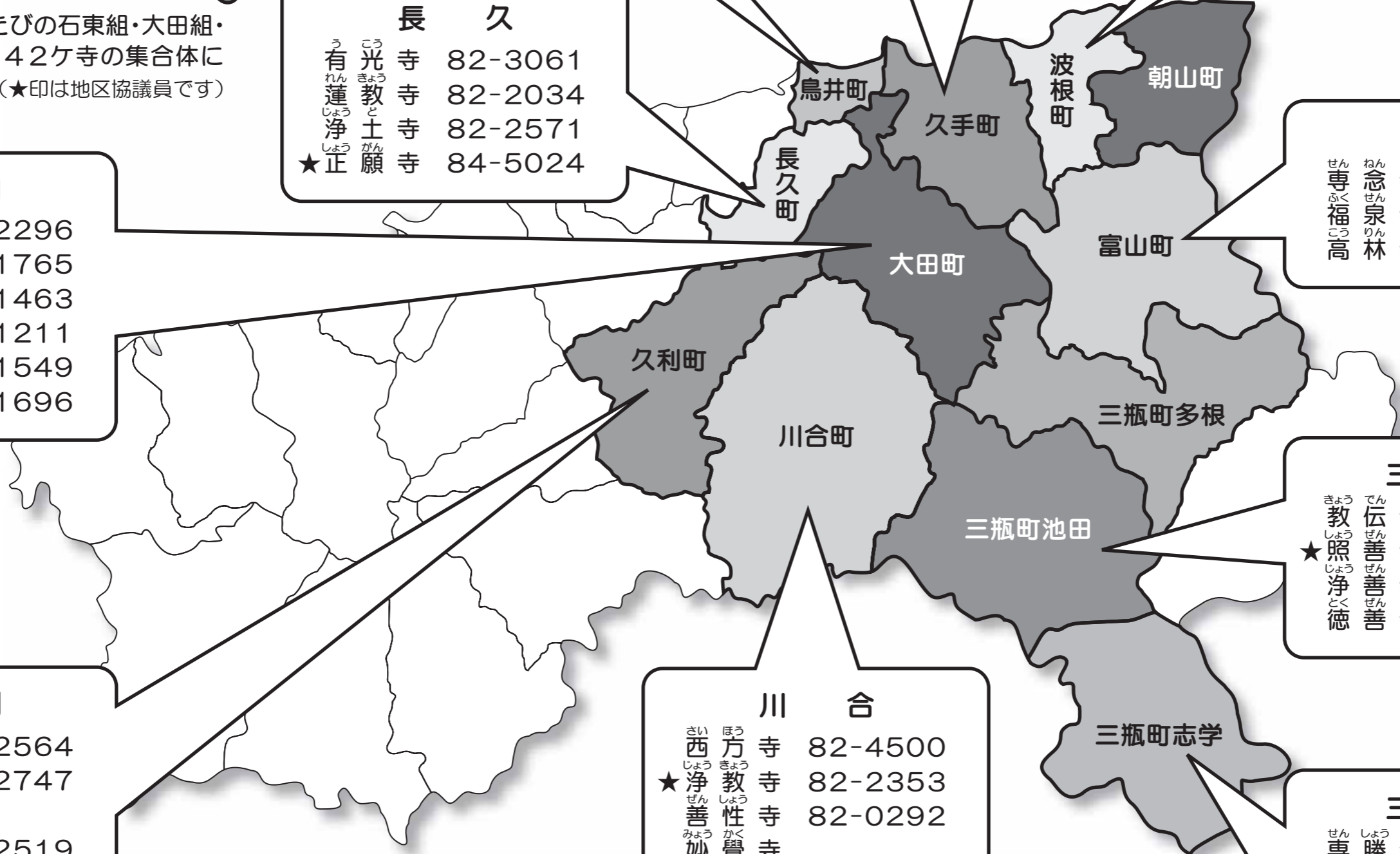
久手	
りん林寺 82-8267	しょう松極正寺 82-7170
ららく楽寺 82-8866	せん専寺 82-8866

波根	
おん恩寺 85-8228	だい大立寺 85-8303
ぜん善寺 85-8303	りゅう立寺 85-8303

長久	
こう光寺 82-3061	う有蓮浄寺 82-2034
きょう教土寺 82-2571	しょう正願寺 84-5024

富山	
ねん念寺 88-0040	せん専福高寺 88-0072
ぜん念泉林寺 88-0012	せん専福高寺 88-0012

大田	
りゅう立楽寺 82-2296	えん圓西正常真明寺 82-1765
ぞう蔵見浄寺 82-1463	しょう常真明寺 82-1211
けん見浄寺 82-1549	せん善寺 82-1696



三瓶町池田	
てん伝寺 83-2389	きょう教照浄徳寺 83-2225
ぜん善寺 83-2665	ぜん善寺 83-2232

久利	
げん賢寺 82-2564	じょう浄圓正信西専念寺 82-2747
まん満善寺 82-2519	せん善寺 82-8493
ぎょう楽善寺 82-1870	とく徳寺 82-7373

川合	
ほう方寺 82-4500	さい西浄善妙蓮真善寺 82-2353
きょう教性覺乗光林寺 82-0292	しょう正願寺 82-2028
かく覚乗光林寺 82-1392	りん林寺 82-1392

三瓶町志学	
しょう勝寺 83-2796	せん専西宗禮寺 83-2246
きょう教正善寺 83-2146	ぜん善寺 83-2260

同朋社会をめざす運動

「人権と平和のつどい」開催

社会部部长 菅原 憲  
(大田・正蔵坊住職)

旧大田組社会問題部会が20年来協賛してい

た「戦争犠牲者を心に刻む大田集会」をこの度の合併により、大田東組が主催という形で引き継ぎ、名称を「大田東組・人権と平和のつどい」と変更いたしました。その第1回目の研修会は、「原発」をテーマに、島根原発増設反対運動代表の芦原康江さんをお招きし、チエルノブイリ事故のドキュメント映画「ザ・サクリファイズ」を上映後、島根原発の怖さや危険性を中心に提言をいただきました。芦原さんは、福島の原発事故が起こる前から島根原発（福島と同型）の耐久安全性評価に誤りがあり、地震による危険性があるとして近隣住民90名とともに運転差し止めを求めた訴訟を起こされています。

「原発はつくることのみが目的である」。これが11年にも及ぶ中国電力との法廷闘争から得た芦原さんの結論でした。県内での電力には使用されず関西方面に送られているといい、地域の活性化を謳い文句にしながらも、

地元の雇用は増えず、外部からの労働者が一時的に増えるだけ。それどころか、地元特産の板わかめなどが、原発の熱排水などで品質劣化を起し、海産業に大打撃を与えている。島根半島を横切るような活断層の危険は過小評価し、原子炉点検も創業以来全く行われていないといわれます。

先日も、国連の委員会で核兵器を非合法化する努力を促す声明案への署名を拒否した日本政府。ヒロシマ、ナガサキ、フクシマと核に対して最も敏感であつていいはずの日本政府の本音です。「権力」を委託している「国民」の一人として、反原発どころか反核兵器の声を無視するこの国の政府に怒りをおぼえます。

参加者の中には、関東地域から、放射能被害を避ける為に島根に疎開している若い方たちもおられました。その若い人たちも原発を叫び、こういう集いに積極的に参加されています。福島においては被曝労働者がすでに万を越えたといわれます。また政府は原発事故が収束していない現在においてなお次から次へと原発の再稼働を検討しています。

今後「御同朋をめざす運動」社会部として、人権・平和を中心としたテーマを持続して活動していきたいと思っています。

共に生きる、念仏者に

大田東組仏教婦人会連盟 委員長  
下 迫 千 歳  
(大田・真浄寺門徒)

大田東組の誕生で、856名会員での出発です。6月9日午後、大田町正蔵坊で初めての総会を開き、大代町西臨寺 荒本由未先生に「新たなはじまり」という講題で。10月6日のあすてらすでの研修会では、大屋町大雄寺 毛利壽恵子先生に、「仏教婦人として、念仏者として『限りあるいのちを生きる』」と題してお話をいただきました。

私は、あいさつで「やさしさにあつたら」という仏教讃歌の一節を紹介しました。

『やさしさにあつたら 喜びをわけてあげよう  
さびしさを感じたら 誰かに声をかけよう  
苦しみにあつたら ひたすらにたえていこう  
合わす手のぬくもりに ほのぼのとやすらぐ心  
限らない光の中に生かされて生きて行く日々』  
私たちは、孤立して一人では生きていけません。苦しみにあつたら、ひたすら耐えるのではなく、乗り越えられるよう、共に苦しみ、共に怒り、共に悲しみ、お互いの手を差し伸べ、声をかけ合い、共に生きる念仏者になりたいと思います。

## よりどころ

森山 朝子(久利・浄賢寺門徒)

先日、ある団体のバスハイキングにお手伝いで参加させていただきました。

咳き込む私に、重度の障がいのある方が「大丈夫？気をつけてね」とゆっくり穏やかに優しく、声をかけて下さいました。

今まで何度か出会っているものの、その方が感情を表現され、声を聞いたのは初めてでした。驚きと共に声は小さくとも、気遣いが温かく染み渡り、心からうれしく思えました。その方が、私を見てて気遣い下さったのだと思った時、聴聞での「仏はいつでも私たちに願いをかけて下さっているのに気づかない自分・・・」を思い出しました。

お寺の掲示板には、《帰命とは、仏様からの私をよりどころにして生きなさいとの言葉だ》とありました。

日々の暮らしも、

仏縁と融和させていた  
ただきながら過ごしたいと願います。



## 凡夫の願い

田中 睦男(波根・立善寺門徒)

このたび新しく誕生した大田東組は地域の範囲を拡大して、これまでの3組を1組に合併し、(旧安濃組と略同じ範囲)寺院や門信徒会の諸活動の活発化を念じて編成されたと思われる。その目標は達成されるであろうか。特に信心に基づく聞法や、門信徒会員、家族、近隣の方々への伝道等の基本活動は、先ずは自坊が起点になることは言うまでもない。

お寺は「浄土真宗のみ教え」を法会や研修・親睦活動、護持活動を通して理解し実践する場である。同時に諸会合の行われる会所でもある。寺方と門信徒が協力し、親交の宗門となるよう努力をしたいものである。

新しく誕生した大田東組はこれまでと違って距離感もあり、人間関係も新たになるであろう。一層胸襟を開いて交流し、集団エゴに陥らないことが肝要である。

仏法という大道を歩みつつお互いに学びあい協力する力が育てば、念仏の輪は自然に広がっていくに違いない。

## 命の尊厳を学ぶ

月森 忠正(三瓶・徳善寺門徒)

縁あって今春、本願寺において開催された門徒推進員中央教修に参加させていただきました。スタッフの諸先生方より受けた感激と全国から参集した志を同じくした仲間との出会いの喜びは言うまでもありませんが、「話し合い法座」での一コマを紹介します。

私がいまにも高齢に見えたためか、「あなたのお歳は？」と問われ、「89歳と6ヶ月です。」と答えました。参加者の女性の一人がすかさず、「その計算は違いますか。あなたは、母親の胎内にいた10ヶ月を計算に入れていませんか。お母さんが我が身を削り、神経を注いでくれた一番大切な期間を計算の外に置くとは大の親不孝者ですよ。」と一喝されました。私は目の覚める思いがして、母親に申し訳なく、心の中で掌を合わせ詫言びた次第です。命がけで子どもを出産した尊い経験から出た言葉に強く心を揺さぶられました。

終わりに、大田東組の今後益々の発展を念じ、組報「おおだ東」の今後に絶大の期待を込めつつ、拙い筆を置きます。



吾亦紅

▲「菩薩の願心は、如来の怒りの心をあらわしたものである。怒りなき慈悲心は無価値である。」(真宗大谷派学僧・藤元正樹)という言葉がある。私はこの言葉をはじめて目にしたとき、胸の動悸をおぼえるほどであった。あまりにも過激で痛烈な言葉だ。▲思わずその言葉は親鸞聖人の念仏弾圧事件を想起せしめた。聖人は著書「教行信証(ききょうぎょうしんしやう)」に「天皇たちは、法に背き義に違反して、怒りに心をまかせて念仏者に怨みをいだき、みだりがわしく、法然上人とその門弟数人を死罪、流罪に処した」と記している。上皇、天皇を名指しして、彼らの弾圧は法の義と仏教の真理に反していると弾劾した。なんと激しい文章であろうか。仏教徒がこれほど明確に時の政治権力を批判したことは日本史上例のないことである。▲真の慈悲心というのは、人間そのものが崩壊に瀕していく時代の闇に向き合い、人間の自由や尊厳を奪い去る権力の猛威に対する渾身の憤怒なのである。

(龍)

文芸コーナー

正蔵坊門徒 福田 勲

遇ひがたき他力の教へに恵まれて  
老ゆく我の心を拓く

寺庭の銀杏大樹は黄に燃えて

師走の風にいきぎよく散る

極楽寺 前坊守 福間 清子

里帰る子も無き孟蘭盆

夫婦わびしく寄添ひ燈明あげる

仏門に生まれし孫に五才児を

祝ひて贈る琥珀の念珠

何時の日か我が歌掛けむ 子が

呉れし短冊掛けに師の歌飾る

昔から体が弱く病気がちという母は、今、病床上に臥せ、自分の思いをなかなか伝えることのできない状況になりましたが、以前から自分の詠んだ歌をぜひ一冊の本にまとめてみたいという思いを私に伝えておりました。今回掲載させていただいた「何時の日か・・・」の歌を目にしたとき、母の思いや願いが込められた歌をまとめてやりたいという思いに駆り立てられてまとめてみました。

(福間清子短歌集・しず心なく)より

大田東組からのお知らせ

組講・門信徒会 運動研修協議会のご案内

期 日：平成25年 3月30日(土)、31日(日)

会 所：未 定

講 師：信 楽 峻 磨 氏  
(元 龍谷大学学長)

※詳細は、2月下旬、各寺院にご案内いたします。

編集後記

大田東組って何だかな、  
と思う門徒さんが多いと思います。門徒が求めたのではないため、わらくにくいことでしょう。しかし、諸般の事情で、私たち浄土真宗同朋の地域結合体が新しく生まれました。これも新たな縁です。親鸞聖人のみ教えの基に、大田東組が目指すところを示し、創刊号としてお届けすることとなりました。「ひらかれたお寺」を目指します。僧侶と門信徒がともに創る組報「真宗おおだ東」です。  
(門徒・頭)